

社会科学学習指導案

日 時 平成22年10月28日(木) 5校時

場 所 1年3組教室

学 級 1年3組(男子16名 女子18名 計34名)

指導者 教諭 平田 隆裕

- 1 単元名 第2章 都道府県の調査
第1節 多面的に調べよう さまざまな地域からなる岩手県

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、『中学校学習指導要領』地理的分野の内容(2)地域の規模に応じた調査「イ 都道府県」にあたる。47都道府県の中から学校所在地の都道府県を含めて、二つ又は三つの都道府県を事例として取り上げ、地理的事象を見いだして追求し、地域的特色をとらえさせるとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせることをねらいとしている。

都道府県を「岩手県」と選択したのは、自分の生活する地域に対する理解と関心を深めさせることが一番であるが、「岩手県」は、山地、平地、臨海地域という地形的条件を持ち、農業、水産業、工業、商業もバランスよく展開されていて、多様な地域性を認識するには条件の整った県であることも大きい。

小学校4年生時に「県の地形や産業等の概要とそこに見られる人々の生活の様子」を学習しており、それらの学習成果を生かしながら、より深まった追求をしていく。地域的特色をとらえる方法としては、統計資料の読み取りを中心として様々な資料を活用していきたい。

(2) 生徒について

全体的に意欲的に取り組む生徒が多いが、学力に関しては個人差がやや見受けられる。社会科については、「好き」「どちらかといえば好き」と答えている生徒が多いものの、地理分野よりも歴史分野のほうに興味関心が高い傾向がある。

資料の活用に関しては、地図や資料集を用いながら授業を進めている。ほとんどの生徒は資料を読み取ることができるものの、読み取ったことを比較したり、関連付けたりする力、自分なりの見方や考え方を交流する力は不足している。

日本や世界に見られる諸事象を位置や空間的な広がりとの関わりで地理的事象として見いだす「地理的な見方」は少しずつできてきている。しかし、地理的事象がなぜそこでそのように見られるのか、そして、なぜそのように分布したり移り変わったりするのか、その背景や要因を追求したり、捉えたりする「地理的な考え方」はまだ不十分である。

(3) 指導にあたって

社会科で育成したい「思考力・判断力・表現力等」は、「資料から必要な情報を集めて読み取る」「社会的事象の意味・意義を解釈する」「事象の特色や事象間の関連を説明する」「自分の考えを論述する」の4つの活動を通して行う。そこで、本単元においては、次の活動を重視して授業を構成する。

- ① 岩手県に関するさまざまな資料を読み取り、そこから学んだことを記述する活動。
- ② ①で読み取ったことをもとに、岩手県の特徴についての自分の考えを発表する活動。
- ③ ①や②を受けて、岩手県の諸事象を関連付けながらまとめる活動。

また、その手だてとしての「互いにかかわり合う活動」は、資料から読み取って自分の考えを記述する時間「個の学び」をしっかりと確保し、「仲間との学び」につなげていきたい。「個

の学び」「仲間との学び」は、本時の課題意識を明確に持たせ、問題解決を図るために有効な手段であると考え。「仲間との学び」についてはペア学習を基本とし、場面によっては4人グループに広げて自分の考えをより深化・補充させていく。そして、最終的な自分の意見をまとめる「個の学び」に戻し、単位時間におけるねらいに迫っていきたい。

単元全体の学習のテーマとして『岩手県の魅力発信!』とし、紹介するために必要な素材を多面的にとらえた地域的特色から選択させる。PRパンフレット作成を行わせるが、単なる観光地の羅列にならないよう、岩手県をより深く理解してもらうために学習した内容を生かし、構成など工夫をさせながら考えさせていきたい。そして、個々に考えたものを発表しながら、その中で自分たちが住んでいる地域の良さや課題について気付かせていきたい。身近な社会的事象の新たな発見は、関心・意欲・態度につながっていくものであると考える。

3 単元の目標

- (1) 岩手県に対する関心を高め、意欲的に地域的特色をとらえることができる。
【社会的事象への関心・意欲・態度】
- (2) 岩手県の地理的事象から課題を見だし、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に追求するとともに、地域的特色をとらえる視点や方法を考察することができる。
【社会的な思考・判断】
- (3) 岩手県に関する資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、岩手県の地域的特色を追求し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりすることができる。
【資料活用の技能・表現】
- (4) 岩手県の地域的特色とその背景を理解することができる。
【社会的事象についての知識・理解】

4 指導計画（第2章 都道府県の調査 第1節 多面的に調べよう：7時間扱い 本時4／7）

時数	学 習 内 容	評 価 規 準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
1	1, 単元学習テーマを決め、様々な情報を集めてみよう ・テーマ『岩手県の魅力発信!』 ・岩手県の調査 ・自然の特色	岩手県について各種の資料を使って様々な情報を積極的に収集しようとしている。	岩手県の地域的特色をとらえるための視点や方法を考察している。	景観写真や地図などから、岩手県の自然の特色を読み取っている。	自然に関する地域的特色を理解している。
2 3	2, 地域の自然を生かした生活 ・自然を生かした農業 ・豊かな自然にめぐまれた水産業 ・気候を生かした畜産業	農業・水産業・畜産業の地域的特色を積極的に調べようとしている。	各地域の形成を、自然条件と関連させて考察している。	土地利用図から、稲作、畑作、酪農地域、養殖・栽培漁業地域などが形成されていることを読み取っている。	自然を生かした農業・水産業・畜産業に関する地域的特色を理解している。
4	3, 地域的特色を生かした工業 ・伝統産業や工業の調査 ・特色ある伝統産業と発展する近代工業 (本時)	第二次産業の地域的特色を積極的に調べようとしている。	近代工業発展の背景について、多面的・多角的に考察している。	伝統産業や近代工業を調べるために役立つ情報を適切に選択している。	第二次産業の状況に関する地域的特色を理解している。

5	4, これからの岩手県を考える ・観光に見る他地域との結びつき ・これからの岩手県を考えよう	岩手県の将来のあり方などについて意見交換をするなど、岩手県の地域的特色に関心が高まっている。	他地域との結びつきを観光と関連させて考察している。	観光統計資料などから観光地の生活や文化の特色を読み取っている。	交通機関や交通関連施設の整備が、岩手県の人々や産業などを他地域と強く結びつけるようになってきていることを理解している。
6 7	5・6, 岩手県の魅力を他地域へ発信しよう ・PRパンフレット作り ・発表会	岩手県の地理的事象に対する関心を高め、魅力を他地域へ発信するために積極的にパンフレット作りに取り組んでいる。		地域的特色を学習し考察した過程や結果を、適切にパンフレットにまとめたり、発表したりしている。	

5 本時の指導について

- (1) 目標
- ・岩手県の工業発展の背景について、多面的・多角的に考察することができる。
【社会的な思考・判断】
 - ・岩手県の伝統産業や近代工業について資料を収集・分析して、第二次産業に関する地域的特色を把握することができる。
【資料活用の技能・表現】

(2) 具体の評価規準

観 点	A 十分満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
社会的な思考・判断	近代工業発展の背景について、様々な資料から多面的・多角的な視点で思考し、判断している。	近代工業発展には、交通網や人口密度など関係する一つ一つの資料から分かることを確認し、資料を関連させて分かることを指摘させる。
資料活用の技能・表現	近代工業発展を調べるために役立つ情報を適切に選択し、考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。	調べるために必要な様々な資料から分かることを机間巡視しながら個別に指導する。

(3) 指導の構想

本時は、岩手県の大きな特徴の一つである第二次産業の地域的特徴をとらえる時間である。岩手県の第二次産業の地域的特徴として、昔からの伝統産業と現在の近代工業と2つの特徴が挙げられるが、近代工業の伸びについて課題を設定し、課題解決に向かわせていきたい。

導入では、まず岩手県に関わる伝統工芸品を挙げさせたい。岩手県の特徴である伝統産業に簡単に触れておくことは必要であると考え。そして、近代工業へ目を向け、課題設定をしていきたい。課題の検証にあたっては、現在の工業発展の背景について、交通網・人口密度と工業団地分布の関係、工業生産額の変化などの資料をもとに明らかにしていく。根拠を明らかにし、自分の考えをまとめる「個の学び」の時間をしっかりと確保したい。その後、ペア同士での意見交換、説明など「互いに関わり合う活動」（「仲間との学び」）を十分に行わせた上で、全体へ広めさせていく。

終末においては、最終的な自分の意見をまとめさせる「個の学び」を行う。「仲間との学び」を通して、課題に対してのまとめと位置づけるようにしたい。

(4) 展開

段階	学習活動 《学習形態》	教師の働きかけ	○指導上の留意点 ●評価の方法・観点
導入 10分	1, 前時までの復習 ・岩手県の自然 ・農業、水産業、畜産業の特色 2, 岩手県の伝統的工芸品の確認 ・南部鉄器 ・浄法寺塗り ・岩谷堂箆笥 など 3, 岩手県の工業生産額の変化の捉え 4, 学習課題の設定	1, 掛図から簡単に確認させる。 2, 小学校時の既習事項を思い出させる。 3, 約半世紀前の工業生産額から岩手県の近代工業が大きく成長していることを捉えさせる。	○時間をかけずに、簡単に済ませる。 ○南部鉄器や浄法寺塗りは実物を用意し、本物にふれさせる。 ○経済産業大臣指定の4つ（秀衡塗・浄法寺塗・南部鉄器・岩谷堂箆笥）以外にもあることを気付かせる。 ○岩手県でも近代工業が伸びていることを数値でおさえ、課題へつなげていく。
展開 32分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> なぜ、岩手県内の近代工業は伸びてきているのだろうか。 </div> 5, 課題についての予想 ・自動車の生産がされているから。 ・高速道路沿いに工場があり、原料や製品を運びやすいから。 《個→ペア→全体》 6, 課題についての検証 資料1：岩手県の工業生産額の変化 資料2：岩手県の交通網と人口密度 資料3：岩手県の工業団地の分布 資料4：都道府県別土地平均価格表 資料5：都道府県別平均時給と最低賃金 資料6：変わる岩手県の工業（釜石市） 《個→ペア→全体》	5, 根拠を持って考えを述べさせる。 6, 現在の工業発展が分かる資料を選択し、根拠を明らかにして書かせる。 個別に書いたものをペアで交流し、全体へ広げさせる。	○前時までに学習した自然や地形との関わりから考えることができないかと考えさせる。 ●【資料活用の技能・表現】 記述内容 「岩手県の工業について資料を収集・分析して、第二次産業に関する地域的特色を把握することができる。」
終末 8分	7, 本時の振り返り 《個→全体》 8, 次時の予告	7, 本時を振り返って課題に対するまとめを書かせる。 8, 次時は岩手県の観光地と他地域とのつながりについて調べることを予告する。	○課題解決でとらえた内容を落とさないように、板書やプリントから再度確認しながら書かせる。